

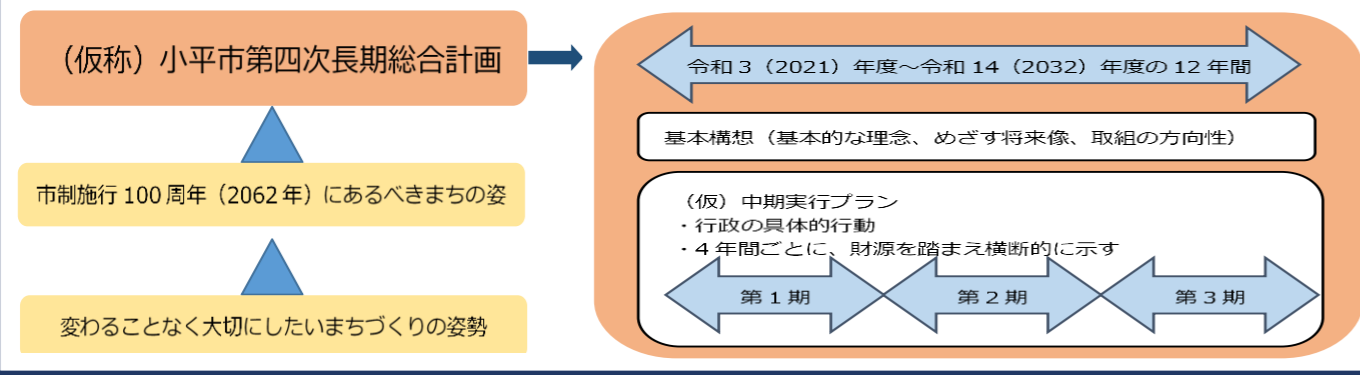
※第4回審議会（令和2年1月9日開催）資料2①から変更した部分にアンダーラインを引いています。

基本情報

第四次長期総合計画の役割

- 市民、事業者、行政など全てのまちづくりの主体が、市を取り巻く状況と課題を把握し、将来のまちのめざす姿とまちづくりの方向性を共有し、実現に向けて各主体が具体的に行動するための羅針盤

第四次長期総合計画とは



計画策定の視点

- 人口減少、少子高齢化の進行や公共施設の更新時期の到来等、新たな課題への対処とともに、市制施行100周年（2062年）の小平市を見据える
- 地域住民、地域の多様な主体、行政がつながり、地域を共に創っていく
- 持続可能な社会の構築

計画の背景

小平市のあゆみ

- 旧石器時代（約3万年前）の鈴木遺跡（昭和49年発見）
- 江戸時代（承応3(1654)年）玉川上水完成
- 明治22(1889)年に小平村ができ、明治27(1894)年に市内で初めての駅（小川駅）ができる
- 昭和19(1944)年に小平村が小平町に、昭和37(1962)年に小平町が小平市となる

小平市を取り巻く状況

- 人口減少、人口構成の変化→現在19万人台（65歳以上人口約23%）から2060年代には15万人台から14万人台（65歳以上人口約36%）と推計
 - 生産年齢人口減少に伴う市税減、高齢化に伴う社会保障関係経費の増→行政施策の優先順位付けや取捨選択の必要性
 - 公共施設の老朽化に伴う更新ピーク到来
 - 自然災害や気候変動に対する安全安心への対応
 - 暮らしや働き方を変える Society5.0*時代の到来
- *①狩猟時代、②農耕時代、③工業社会、④情報化社会に続く人類史上5番目の新しい社会。新しい価値やサービスが次々と創出され、社会の主たる人々に豊かさをもたらしていく。

小平市の特性

- 地勢**
 - ・市域全体が武蔵野台地上に位置し、標高差の少ない平坦な地形
- 自然環境**
 - ・玉川上水、野火止用水、狭山・境緑道、都立小金井公園を結ぶグリーンロードや武蔵野の風情を残す雑木林などの自然環境に恵まれている
- 交通**
 - ・市内に鉄道駅が7駅あり、都心等へのアクセシビリティが良い
- 学園都市**
 - ・多数の大学、大学院、専門学校、高校等が立地し、多くの若者が集まる学園都市である
- 地域資源**
 - ・新5千円札の肖像にも選定された津田梅子、ブルーベリーなどの季節の果物や農産物、昔ながらの丸ポスト、小平ふるさと村などの文化施設といった多様な地域資源が存在する

基本構想

基本的な理念

「わたしたちは互いに認めあい、支えあい、助けあい、安全安心に住み続けられるまちづくりのために力を合わせます。そして、『ふるさと こだいら』の豊かな環境と文化を守り、育て、後世に伝えます。」

※基本理念は、市民、事業者、行政など全てのまちづくりの主体が共有し、大切にしたいまちづくりの姿勢まちづくりに取り組む際に、常に立ち返るべき基本的な考え方

取組の方向性

基本目標Ⅰ（ひとづくり）

ひとが育ち、学び、新たな価値を創造するまち

- 方針1 子どもの育ちと自立を支援する(子育て支援、学校教育、若者活躍)
- 方針2 全世代、元気にはつらつと過ごす(健康づくり、スポーツ、生涯学習)
- 方針3 まちの誇りを受け継ぎ、発展させる(歴史、文化芸術)

基本目標Ⅱ（くらしづくり）

多様性を認めあい、つながり、共生するまち

- 方針1 誰もが尊重され活躍できる社会の実現(男女共同参画、障がい者支援、多文化共生)
- 方針2 様々な絆で支えあう(介護、保健福祉、生活支援)
- 方針3 地域力をいかした地域づくり(地域コミュニティ、安全・安心)

基本目標Ⅲ（まちづくり）

自然と調和した、快適で、魅力あるまち

- 方針1 水やみどりを保全・創出し、環境にやさしい循環型社会を形成する(緑、環境、資源循環)
- 方針2 安全で、住みやすいまちを形成する(市街地整備、道路、交通)
- 方針3 地域資源をいかし、活力と交流を生み出す(商工業、都市農業、観光)

めざす将来像

※将来像は、基本理念に基づき、第四次長期総合計画の期間でめざすビジョンです。第三次長期総合計画（2006年策定）では、『躍動をかたちに 進化するまち こだいら』を将来像として掲げ、市民、事業者、行政など全てのまちづくりの主体が共有し、その実現に向けて取り組んできました。第四次長期総合計画では、市制施行100周年（2062年）を見据えつつ、その通過点としての12年後（2032年）にめざしていく姿を将来像(ビジョン)として分かりやすく表現します。別紙のこれまでの市民参加でいただいたご意見や、骨子案に対するご意見も踏まえ、12年間皆で共有するビジョンを今後設定します。

重点プロジェクト

第四次長期総合計画の期間中に特に優先的かつ集中的に推進していく必要があるものを4つの視点「ひとづくり」「くらしづくり」「まちづくり」「行財政運営」に基づき、「重点プロジェクト」として設定します。

3つの基本目標を達成するための持続可能な行財政運営
多様な主体との協働と連携
行政経営の最適化
財政基盤

※市立小学校では、一般の意見募集用骨子案をアレンジしたものを掲示していただきました。

長期総合計画ってなに？



わたしたちが大人になっても、安心してずっと住みたいと思えるまちにするためには、どうすればいいのかな？

小平市では、小平市の将来をよくするために、めざすまちの姿や、みんなで一緒にまちづくりに取り組んでいく内容をまとめた「長期総合計画」をつくっています。今作っている第四次の長期総合計画は、令和3（2021）年度から令和14（2032）年度までの12年間の計画です。



この骨子案には、計画の基本的な考え方をのせています。この考え方について、みなさんから意見をもらって、計画を完成させる予定です。

小平市ってどんなところ？

小平市の歴史

昭和49年に、今から3万数千年前にもさかのぼる、旧石器時代の鈴木遺跡が発見されました。江戸時代（承応3（1654）年に玉川上水が完成、明治22（1889）年に小平村となりました。明治27（1894）年に小平市ではじめての駅（小川駅）ができました。昭和19（1944）年に村から町に、昭和37（1962）年に小平市となりました。

小平市の特性

小平市には、良いところがたくさんあります。例えば、市の名前にもあるとおり、平らなこと。自然がたくさんあること。市内には7つもの駅があること。大学や高校がたくさんあること。新しい5千円札の肖像にも選ばれた津田梅子さん、ブルーベリー、丸ポストなど。このような小平市の良いところは、暮らしやすいまちづくりをしていくためにも大切にしたいことです。

小平市の人口は、これまで増え続けてきましたが、これからは減っていきます。また、子どもの数が減り、65歳以上の高齢者が増えることが予想されています。みんなが過ごす小学校や中学校も古くなってきています。また、スーパー台風といわれるような自然災害も増えています。情報科学技術もどんどん進んでいきます。これからのまちづくりを考える上で、重要なこととなります。

基本構想

基本的な理念

「基本的な理念」は、将来にわたってみんなが暮らしやすい、より良いまちにしていくための土台となる考え方です。小平市では、下に書いてあることを、誰もが思いつづけることが大切だと考えています。

「わたしたちは互いに認めあい、支えあい、助けあい、安全安心に住み続けられるまちづくりのために力をあわせます。そして、『ふるさと こだいら』の豊かな環境と文化を守り、育て、後世に伝えます。」

取組の方向性

小平市の将来像を実現するための目標と、そのために取り組んでいく内容です。少しむずかしいかもしれないけれど、これからの小平市にとって大切だと思う取組など、あなたの考えを教えてください。

基本目標Ⅰ（ひとづくり）

ひとが育ち、学び、新たななちをそぞろするまち

- 方針1 子どもの育ちと自立を支援する(子育て支援、学校教育、若者活躍)
- 方針2 全世代、元気にはつらつと過ごす(健康づくり、スポーツ、生涯学習)
- 方針3 まちの誇りを受け継ぎ、発展させる(歴史、文化芸術)

基本目標Ⅱ（くらしづくり）

たようせいをみとめあい、つながり、きょうせいするまち

- 方針1 誰もが尊重され活躍できる社会の実現(男女共同参画、障がい者支援、多文化共生)
- 方針2 様々な絆で支えあう(介護、保健福祉、生活支援)
- 方針3 地域力をいかした地域づくり(地域コミュニティ、安全・安心)

基本目標Ⅲ（まちづくり）

自然とちようわたした、かいてきで、みりよくあるまち

- 方針1 水やみどりを保全・創出し、環境にやさしい循環型社会を形成する(緑・環境・資源循環)
- 方針2 安全で、住みやすいまちを形成する(市街地整備、道路、交通)
- 方針3 地域資源をいかし、活力と交流を生み出す(商工業、都市農業、観光)

めざす将来像

長期総合計画では、「基本的な理念」を大切にしながら、めざす小平市の姿を「将来像」として、わかりやすく表現しています。今の第三次長期総合計画の将来像は「躍動をかたちに進化するまち こだいら」です。次の、第四次長期総合計画でどのような小平市をめざしていくのか、小平市に住む人、働く人、学ぶ人たちが協力しあって実現するための将来像をこれから決めます。どのような将来像がよいのか、これまでの意見やこれからもらう意見を参考にします。(これまでの意見は、「別紙」にまとめています。)

3つの基本目標を達成するための持続可能な行財政運営

- 多様な主体との協働と連携
- 行政経営の最適化
- 財政基盤

重点プロジェクト

第四次長期総合計画は、市が誕生して100年（2062年）まで、みんなが暮らしやすいまちをひきつぐことができるよう、取り組んでいく計画です。そのために、特にしっかり取り組むことを、重点プロジェクトにする予定です。